

放射線障害（放射線治療後の合併症） における高気圧酸素治療について

放射線障害の発症率は約5%と言われており、一定量の放射線被曝を受けた場合、正常細胞の損傷により腸炎や出血性膀胱炎等を合併し、日常生活の僅かな活動でも出血を呈することがあります。高気圧酸素治療とは、治療タンク内を大気圧より高い気圧に加圧し、高濃度酸素を吸入することで血液中に溶け込む酸素量（溶解型酸素）を増やすことができます。高気圧酸素治療により溶解型酸素の量を増やすことで、正常細胞に酸素を多く供給し、脆くなった細胞の修復や再発リスクの軽減が期待できることから治療方法の1つとして選択されています。

必ず紹介状をご持参下さい。

治療の流れ

- **受付・問診** 外来棟1階で受付していただき、看護師がその日の体調確認を行います。
- **診察** 医師が診察し、治療可能かを判断します。
- **準備** 高気圧室へ移動し、専用の治療着に着替えていただきます。
- **治療開始前** 心電図と血圧計を装着し持ち物チェックの後、装置に入ってください。
- **加圧** 15分かけて1気圧を2気圧まで上げます。（耳に違和感がありましたら「耳抜き」を行っていただきます。）
- **治療中** 2気圧まで加圧したらその状態を60分間保持します。（治療中はテレビを見てお過ごしいただけます。）
- **減圧** 10分かけて元の1気圧まで戻します。
- **治療終了後** 装置から出た後、耳の違和感や痛みがないか、心電図や血圧に異常がないか確認し終了となります。

治療前の確認事項

① 耳抜き（耳抜きは当日担当するスタッフが事前に説明します）

治療中は装置内の気圧が変化し鼓膜の内外で気圧差ができるため、耳痛と言う耳の痛みを生じることがあります。トンネルの中に入った時や飛行機に搭乗した時に耳がポーンとする症状が耳痛であり、この耳痛を解消するためにはご自身で耳抜きを行っていただく必要があります。なお、風邪や花粉症により鼻詰まりを起こしている方は耳抜きができないことがあり、その際は治療が行えない可能性があります。

② 閉所恐怖症

当院の高気圧装置は全面アクリル板で装置内から部屋全体を見渡すことができますので安心して治療を行っていただけます。ただし、稀に装置に入った際に不快感やめまいといった症状がでることがあります。



当院の
高気圧酸素治療室

注意事項

- ①治療中はお手洗いにいきません。タンクから出る場合は最短でも10分要します。
お手洗いは必ず治療前に済ませてください。
- ②治療中は100%の酸素を使用するため、火気の原因になる物や電子機器の持ち込みはできません。
<持ち込みできない物>
 - ・静電気が生じやすい衣類（ただし綿100%の衣類は可）
 - ・使い捨てカイロなどの熱を生じるもの
 - ・携帯電話や音楽プレイヤーなどの電子機器
 - ・マッチやライターなど火災につながるもの
 - ・腕時計や指輪などの装飾品

放射線障害に対して高気圧酸素治療を行う場合、一連で最大30回まで治療を受けていただくことが可能です。（保険適応）

初診時に治療を受けるための必要な検査（胸部レントゲン、心電図、採血）を行います。

問題がなければ当日の治療も可能です。（別途費用）

交通のご案内

名古屋市営バス・タクシー・お車にてお越しいただけます。

詳しくは病院ホームページをご確認ください。

※受診される方は駐車場料金が5時間まで無料となります。



お問合せ先

☎ 052-362-5151

ご予約

☎ 052-353-9100

月曜日から金曜日 9:00～17:00（祝日・年末年始を除く）

*「高気圧酸素治療の件です」とお伝えください。担当窓口におつなぎします。

医療法人偕行会 名古屋共立病院 名古屋市中川区法華一丁目172番地



詳しくはこちらから